

1 学校教育目標
自分らしく 元気に 持てる力を精一杯発揮し 人と関わりながら 主体的な学びを生活につなげる児童生徒の育成

2 本年度の重点目標
<p><かがやく児童生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> ○元気で笑顔あふれる児童生徒 <ul style="list-style-type: none"> ・ (教務・研修) 活力あふれる児童生徒の育成に向けた日々の授業の充実 ・ (保体) 心身の健康増進と体力の向上、食育の推進と保健指導 (性教育) の充実 ・ (進路指導) 児童生徒の自立と社会参加に向けたキャリア教育、進路支援の充実 ○仲間と仲良くする児童生徒 <ul style="list-style-type: none"> ・ (生活指導) 「認め合い、ほめ合い、励まし合い、助け合う」心の育成 「天草支援学校いじめ0宣言」を守る児童生徒の育成 ・ (人権教育) よりよい人間関係作りを目指した人権教育の推進 ・ (保体) 「いのちを大切に作る心」を育む指導の充実 ○主体的に活動に取り組む児童生徒 <ul style="list-style-type: none"> ・ (教務) 学校・学部教育目標、年間指導計画等の根拠に基づく教育実践 ・ (教務・研修) 児童生徒の実態を踏まえた諸計画の的確な立案と授業における具現化 ・ (生活指導) 児童生徒会活動の充実、児童生徒の主体性を最大限に尊重した教育活動 <p><かがやく学校></p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域に信頼され、地域とともにある学校 <ul style="list-style-type: none"> ・ (保体・防災・事務) 安心・安全な学校づくりの推進と防災体制・防災教育の強化 ・ (教育支援) 特別支援教育のセンター的機能発揮のための諸事業の推進 ・ (総務) 学校運営協議会及びCSの継続と深化 ○学習環境の充実と環境教育の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ (教務・研修) 小・中・高の連携と各学部の持ち味を生かした教育の展開 ・ (保体) 組織的な環境教育の実施と評価 ・ (情報) ICTの活用による学力の向上及び校務の効率化 ・ (保体・事務) 花と緑の環境づくり推進 ○教職員間の協働 <ul style="list-style-type: none"> ・ (総務) 業務のスリム化と分掌部及び学部間のつながりと情報共有が可能となる組織的運営 ・ (研修) 専門性の維持・向上に向けた研究、研修体制づくり <p><かがやく地域></p> <ul style="list-style-type: none"> ○交流及び共同学習の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ (総務) 近隣小中高等学校等との交流の充実 ○各関係機関及び関係部署との連携強化 <ul style="list-style-type: none"> ・ (教育支援) 校内支援体制の充実と天草地域特別支援連携協議会及び関係機関との連携 ・ (総務) 天草拓心高校との連携及び地域理解の推進 ○コミュニティ・スクールによる地域連携の継続 <ul style="list-style-type: none"> ・ (CS・総務) 本校の教育活動における地域人材活用の推進 ・ (研修・教育支援) 地域資源を活かした授業づくりの推進及び地域貢献 ・ (防災) 地域や近隣高校と連携した防災体制・防災教育の継続

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	安全・安心な学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 衛生管理・安全管理を徹底できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安全に関する事案を職員や生徒に周知し、事故防止啓発に努める。 ・ 環境整備の時間を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ヒヤリハットの報告結果や社会的な事象をもとに、職員や児童生徒に対して注意喚起をする。 ・ 月2回の職員掃除と月1回の職員作業の時間を確保する。 	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的方策は実施。防災教育に対する教職員の意識が高まったことにより、校内の危険個所の把握や避難時の動線における危険予測など、多角的な視点で安全確保を考える姿勢が広がった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ヒヤリハット事象は一定数発生していたものの、入力件数が十分でなかった。「ヒヤリハット入力週間」を設定し事例を

		<ul style="list-style-type: none"> 危機管理に係る体制整備及び情報発信ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒等の安全で安心な生活を確保するため、防災教育の充実を図る。 実施した訓練の検証結果や本校の実情を踏まえ、「危機管理マニュアル」の見直しや更新を行う。 保護者や教職員の防災に関する連携強化及び意識向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 関連教科や特別活動など学校の教育活動全体を通して防災教育を行う。 各訓練後の教職員アンケートを集約し、マニュアルとして必要視される事項を吸い上げ、「危機管理マニュアル」へ反映させる。 定期的に保護者及び教職員向けに防災通信を発信し、危機管理や防災に関する情報を積極的に共有する。 	A	<p>共有するなど、組織的に危機管理意識を高める必要がある。</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的目標は達成。高等部では隣接する高校との合同避難訓練を実施するとともに、火災避難訓練では防火扉を閉めた状態での避難を行うなど、実際に想定される状況を踏まえた訓練を実施することができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 気象情報を収集しながら体育の授業を進めていたが、悪天候等により水泳の授業が中止となる場面が増え、計画的な授業設定が難しかった。今後も、授業実施の判断基準について検討を深めながら、マニュアルを活用していきたい。
業務改善 ・働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> 効率的な業務遂行によって時間外勤務を抑制することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 正規の勤務時間以外の従事時間の平均値を前年比から減少につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> 業務整理等を通して、業務負担の軽減策を講じる。 効率的な業務遂行に係るモデリングを示しながら、教職員の意識改革を図る。 	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的方策は実施。学部で業務改善について話題にし、具体的方策を検討したことで退勤時刻が早まった職員が増えるなど働き方の改善に一定の効果があった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 時間外勤務の平均値については、管理職および小・中学部で前年度より増加しており、高等部は横ばいの状況にとどまっている。引き続き、効果的な働き方改革のための方策を検討し、全体の時間外勤務縮減につなげていく必要がある。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 風通しの良い職場づくりに努め不祥事を防止することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の困り感等を含めた状況を把握・共有し合い、よりよい改善策を積極的に講じて、職場改革につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の困り感及び業務改善策を集約・整理し、衛生委員会や運営委員会等を活用しながら、実動に移す。 不祥事防止研修資料等を活用するなど、日常的に不祥事防止に係る話題を取り上げ、不祥事防止への意識向上を図る。 	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的方策は実施。不祥事防止に向けて研修を設定するとともに、朝会において実例を交えた講話を行うなど、教職員の意識向上につながる取組を進めることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 管理職や学部主事が個別面談を通して教職員の困り感を聴く機会を設定している 	

						ものの、解決に至らない事例もあった。これまで個人の裁量に委ねられてきた内容についても記録として残し、困り感を可視化・共有することで、組織として支え合う体制づくりと風土の醸成を図っていきたい。
	学校の取組等に係る情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事等を中心とした取組の様子をHP等で積極的に情報発信することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> HP更新の年間計画を作成し定期的な情報発信を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校全体の行事及び各学部の更新計画に基づき、定期的な更新を行うとともに定期的に通信等の掲載を行い、より多くの情報を発信する。 	A	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的目標は達成。各学部の様子については教員が輪番でHPの原稿を作成・更新し、昨年度よりもHP閲覧数を増やすことができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全ての保護者がHPを閲覧するには至らなかったため、速やかな配信とHPへの掲載の棲み分けを整理し、それぞれの媒体の特性を踏まえた適切な情報発信体制を構築していく必要がある。
授業の充実	質の高い授業づくりにつながるカリキュラム・マネジメントの推進	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の実態に即した教育課程であったか。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間指導計画（単元配列表）をもとに実践及び評価を行い、児童生徒の実態に即し改善につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間指導計画（単元配列表）の作成及び修正や児童生徒の実態に即した目標設定と評価を行い、よりよい教育活動計画のツールとしての機能性を向上する。 	A	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的目標は達成。各学部に単元配列表を掲示し、変更点の記入など日常的に活用されることで、教育活動の可視化や共有に寄与した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元配列表を定期的に見直す時間を各学部で確保し、教育活動計画の質をより高めるためのツールとして効果的に機能するよう、継続的な働き掛けを行う必要がある。
		<ul style="list-style-type: none"> 各学部のニーズに応じた研究を通して、教育課程の改善及び授業実践力の向上を図ることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員一人一人が現在の課題を意識しながら、職員間で共有し、課題解決に向けて実践を進めることで教職員の専門性の向上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 各職員がテーマを設定し、適切な目標設定及び実践ができるよう月1回の学部研を実施する。また、それぞれの取組については、学部を超えて周知し、学校全体で共有を行う。 	A	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的目標は達成。計画的に実施した学部研を通して、フローチャートを用いた課題解決の手法を実践することができ、授業の質向上へとつながった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> GoogleClassroomへの資料掲載により共有を図ったものの、十分な閲覧にはつながらなかった。学校全体で共有する場を設け、取組内容をよ

		<ul style="list-style-type: none"> ICTの効果的な活用を踏まえた効率的な授業づくりが展開できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ICTの効果を職員一人一人が把握し、児童生徒の実態に応じた教材を選択して授業づくりを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT教材の使用の有無を含めて授業後に評価、教材の見直しを行いながらICT教材の有効性について、職員の意識を高める。 ICTの効果的な活用方法について定期的に情報発信を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> り効果的に周知できる体制づくりを進めていきたい。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各単元終了時に使用したICT教材の評価を実施し、活用状況を把握することができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT機器の活用した授業と具体物を用いた授業のメリットを比較しながら、授業実践につなげていきたい。
キャリア教育(進路指導)	キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の視点を踏まえ、将来のために今の生活や学びをつなげることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 学部間をつながりを意識したキャリア教育の充実を図る。 児童生徒が将来の働く生活をイメージできるよう、各関係機関と連携を図りながら、高等部現場実習や中学部職場体験を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学部の実態に応じたキャリア教育の取組状況を共有できるよう、学部を越えて取組を紹介する機会を設ける。 卒業後の生活を考える進路学習を充実させるとともに、マッチングを重視した進路面談を行う。 各関係機関と情報共有を密に行いながら、進路決定に関するアドバイスをもらう。 	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的方策は実施。高等部では、各学年2回の現場実習等の実体験を通して生徒の進路選択をより適切に支援することができ、進路面談についても充実を図ることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路決定に至るまでの過程において、生徒自身の自己理解の深化や保護者への働き掛けが十分でなかった。今後は、小学部段階から高等部卒業後の生活像を見据え、児童生徒の自己理解の支援と保護者への継続的な働き掛けを、関係機関と連携しながら計画的に進めていく必要がある。
	進路に関する情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 進路に係る情報提供ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒、保護者や担任に対し、進路情報を定期的に提供する。 教職員やPTAを対象とした進路研修を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者のニーズに沿った進路情報を「進路だより」で発行する。 進路面談で高等部生徒、保護者が卒業後の進路選択ができるよう、事前に担任と進路情報を共有する。 教職員やPTA役員の意見を踏まえて、PTA進路研修、教職員進路研修を実施する。 	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的方策は実施。年3回の進路だよりの発行に加え、2回のPTA進路研修(視察研修・障害年金についての講師招聘)を実施することができ、保護者への情報提供や進路理解の促進に寄与した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 次年度から天草管内において「就労選択支援」が開始されることを踏まえ、関係機関と連携し、保護者および担任に対して必要な情報提供を計画的に行っていく必要がある。
生徒(生活)	交通安全指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 登下校指導を含め、交通安全 	<ul style="list-style-type: none"> 外部情報の活用や関係 	<ul style="list-style-type: none"> 登下校指導を計画的に実施す 	A	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的目標は達成。

指導	実	全に係る指導を徹底できたか。	機関と連携し、交通安全に係る意識の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 警察と連携し、交通安全の取組や交通安全に関する最新の情報を児童生徒及び保護者に提供する。 居住地の危険個所を確認し、児童生徒及び保護者と共有する。 自転車乗車中のヘルメット着用の奨励及び自転車利用者対象の交通安全教室を実施する。 	<p>全学部で交通安全教室を実施し、自転車通学生については登下校時のヘルメット着用率が100%となり、安全意識の向上が見られた。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自転車利用者への交通反則通告制度について、児童生徒の実態に応じた継続的な指導が必要である。今後は警察と連携しながら児童生徒への繰り返しの指導に加え、保護者への周知・啓発を図ることで交通安全教育の一層の充実を目指す。
	生徒会活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の主体的な取組を推進できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 全校レクリエーションや「天草支援学校いじめ0宣言」など、児童生徒会で企画・運営する。 児童生徒会が中心となり、校則の見直しを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒会で定期的に話し合う場を設定し、各学部での活動状況を共有しながら主体的に活動できる環境を整える。 全児童生徒の意見を集約できるよう校則に関するアンケート調査を実施する。 	<p>A</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的目標は達成。高等部校舎に意見箱を設置し、寄せられた意見を踏まえて校則の見直しを行うことができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 校則見直しの取組を全校的に進めるためにも小・中学部校舎に意見箱を設置し、児童生徒会で協議を重ねながら見直しを進めていく必要がある。
人権教育の推進	人権教育及び命を大切にすむ指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒及び職員の人権意識を高めることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 全ての児童生徒及び職員が、各々の経験や体験から人権について自律的に考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修の内容について、各々の人権感覚を働かせながら協議し、各々で適切な答えに到達できるようにする。 児童生徒の実態に合わせて系統的に人権教育を実施できるよう、学部を越えて情報を共有し合う。 	<p>B</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的方策は実施。人権週間では「私の好きな言葉集」を作成し、互いの人生観を学び合う機会を設けることで、多様で複雑な価値観や生き方を尊重し合う姿勢を育む取組を行うことができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の実態に応じた様々な人権課題を学習計画に位置付け、年間を通して計画的に取り扱うことで、人権意識の一層の定着を図る必要がある。
いじめの防止等	未然防止・早期発見・早期対応	<ul style="list-style-type: none"> いじめの未然防止・早期対応の充実を図ることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員に対し、いじめ事案における組織的な対応について周知し、未然防止・早期発見・早期対応の 	<ul style="list-style-type: none"> 年2回のアンケートによる情報収集に加え、保護者や関係機関と情報を共有する。 児童生徒がSOSを出しやすい体制を整える。 	<p>B</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的方策は実施。アンケートによる把握に加え、担任による聞き取りを通して把握できた事案もあり、児童生徒の状況を多面的に捉える取組が進んだ。

			意識向上及び実践の徹底を図る。	・職員研修を実施し法令や組織的な対応の在り方について理解を深める。		【課題】 ・児童生徒がよりSOSを発信しやすい環境を整えるため、月1回の面談日を設定するなど、個別の状況に応じた丁寧な対応を計画的に行っていく必要がある。
地域支援	幼保小中高等学校への支援の充実と関係機関との連携	・幼保小中高等学校への支援の充実を図ることができたか。	・巡回相談における困り感のある子供への指導支援に関する的確な助言及び校内児童生徒に関する教育相談の充実を図る。	・主訴を的確に把握し、通常学級における包摂力を高める視点や個別の指導支援に関する視点を踏まえ、個々の教育的ニーズに応じた助言を行う。	A	【成果】 ・具体的目標は達成。相談者の主訴を的確に把握し、授業や行動の観察、職員研修等を行うことで、校内外における教育的ニーズに応じた助言を適切に提供することができた。 【課題】 ・関係機関と連携しながら校内児童生徒の拡大ケース会議を実施してきたが、さらなる支援体制の充実が求められる。今後も継続的な連携強化と組織的な支援体制の整備を進めていく必要がある。
		・関係機関との連携を図ることができたか。	・天草地域特別支援連携協議会事務局校として、天草教育事務所と連携し各種会議を機能させる。	・天草地域の特別支援教育に関する課題やニーズを明確にし、関係機関との連携を図る。	A	【成果】 ・具体的目標は達成。協議内容や必要資料について天草教育事務所と連携しながら準備を進め、各種会議を計画的に実施することができた。 ・市町特別支援教育推進チェックリストや年間アンケートの結果を踏まえ総括しPDCAサイクルを機能させた。 【課題】 ・障がい児（者）に対する理解啓発を促す講演会の開催など地域の実情に応じた取組を計画的に進め、特別支援教育のさらなる推進を図る必要がある。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	地域とともにある学校づくり	・各サポート体制の充実を図り、めざす学校像を実現できたか。	・CSビジョン図において、防災教育の視点から本校の実態や取組目標の共有を図り、CSの3つのサポートチームでの取組目標の8割	・様々な形式を活用した全体研修を行い、本校のCSの取組について全教職員で共通理解を図る。 ・防災教育を追記した3つのサポートチームの取組計画及び内容を学校運営協議	A	【成果】 ・具体的目標は達成。防災教育の視点から寄せられた意見を踏まえ、避難訓練等の内容に反映し、より実効性の高い訓練を行うことができた。 【課題】 ・これまで2年間、防災教育をテーマとして取り組んできた学

			達成を実現する。	会委員と共有し、PDCAサイクルを機能させる。		校運営協議会について、次年度は従来のテーマに戻ることになる。そのため、アンケート項目や協議内容について見直しを図り、より有効な会の運営ができるよう改善していく必要がある。
	県立天草拓心高等学校との連携	<ul style="list-style-type: none"> 県立天草拓心高等学校との連携協力体制を充実させることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 施設、設備を円滑に共有、活用しながら、教育活動の充実を図る。 体験活動や協働活動、行事等での交流、連携を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 月1回の打ち合わせ会を行い、県立天草拓心高等学校の教職員との連携を深め、施設活用、諸活動に関する情報共有を綿密に行う。 共に学ぶことの大切さを共有できるように、年間指導計画をもとに交流活動の機会を積極的に取り入れる。 	A	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期的に打ち合わせの場を設定し、学校行事や借用教室の調整を円滑に行うことができた。また、高等部生徒に限らず、小学部児童と高校生の交流の場も設けることができ、学校間の連携を深める取組となった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 柑橘類の収穫など活動内容によっては、交流学習の日程調整が難しい場合があった。活動の特性を踏まえた綿密な情報交換を行い、より計画的に交流機会を設定できる体制を整えていく必要がある。

4 学校関係者評価

地域を交えた避難訓練の実施については、関係者から協力的な姿勢が示されており、地域とともに進める防災体制の強化に対して前向きな意見が多く寄せられた。また、福祉事業所においても避難訓練の実施が義務付けられていることから、学校での取組を参考にしたいとの声もあり、互いの実践を共有しながら防災力を高めていくことが求められている。

令和7年9月の大雨による災害の経験を踏まえ、様々な場面を想定した訓練の重要性が強調された。学校・家庭・地域が連携し、多様な災害リスクに備えるためにも、地域の中での子供たちの居場所を確保し、協働の輪を広げていくことが学校およびPTAの重要な役割であるとの認識が示された。今後も、地域と協力しながら実効性の高い避難訓練を継続しつつ、防災意識の向上と安全な教育環境の構築を図ることを期待したい。

5 総合評価

学校教育目標の達成を目指しながら、地域や関係機関との連携を基盤とした防災教育や交流活動を計画的に推進した1年であった。天草拓心高校や地域の関係機関と連携した合同避難訓練、地域人材を活用した授業、居住地校交流など、多様な教育活動の広がりが見られた。これらの取組は、児童生徒の安全確保に向けた実効性の高い訓練や、地域と協働して子供たちを育てる意識の醸成につながった。

6 次年度への課題・改善方策

- 高等部移転から5年目を迎えるにあたり、コロナ禍で縮小を余儀なくされてきた行事や取組、また新たに手探りで開始した活動について、一度整理する時期に来ている。今後は、地域人材を活用した授業の充実や、居住地校交流など学校外での教育活動を更に推進し、本校児童生徒を取り巻く地域・福祉・家庭との連携を一層深めていきたい。
- 行事の位置付けや年間計画を見直し、学校全体の教育方針との整合性を図り、「地域人材活用リスト」を整備し、教科・学部毎に活用できる領域を可視化するなど、持続可能な支援体制の構築を図る。